



七十年の歴史をつなぎ 質の高い幼児教育を 実践し発信する国公幼

全国国公立幼稚園・こども園長会

会長 新山 裕之



歴史の節目に

昭和二十五年十一月、京都市明倫小学校講堂において、国公幼の第一回総会が開催されました。それ以降、七十年もの長きにわたって、多くの先輩方が日本の幼児教育の充実のために努力を積み重ねてきました。

平成から時代が代わったばかりの令和元年六月、第七十回の記念すべき総会・研究大会は、地震からの復興が進む熊本市において開催されました。全国各地から多くの園長先生方が集まり、幼児教育の現状と課題について熱心に議論し、組織としての結束を強めることができました。

質の高い幼児教育とは

十月から始まる幼児教育・保育の無償化に伴い、現場や各自自治体の担当部局では、複雑な事務作業が予想されます。保護者にとつて、長時間保育の利便性に無償化が加われば、保育園の利用希望者が一層増えることも考えられます。

全ての幼児に質の高い幼児教育を提供することが求められています。特別な支援が必要な幼児、外国籍の幼児も含め、共生社会を担う人材を育てるといふ教育の使命を考えると、国公幼が担う役割は一層高まっています。

保護者や地域住民、行政関係者等に向けて、幼児教育の専門家・子どもの代弁者として、幼児教育の質について、分かりやすく説明するためには、園長自身が学び続けなければなりません。

小学校教育との接続については、小学校以上の教育と共通の枠組みを使いつながり、幼児教育としての特性も分かりやすく説明する責任があります。熊本大会を前に国公幼を紹介する

新しいパンフレットも作成し、お手元にお届けしました。行政等への説明や紹介に積極的にご活用ください。

今日的課題に組織として対応する

国公幼としての発信の一つとして、全国七ブロックで実施する全国キャンペーン・研修会の中で、幼児教育について一般の方々に分かりやすく伝える講演会を実施します。そこで使用する資料は、特別事業委員会が、(一般社団法人) 保育教諭養成課程研究会と協力し、全国各地で誰でも使える資料を目指して作成しています。昨年度、各地で実施している研修や研究などについて調査しました。それらを分析し、幼児教育の質の向上につながる研修の在り方や体系化についてもフィードバックしていきます。

これまでの国公幼の活動の歴史を再確認しつつ、私たちがこれから進むべき方向性を共有するために「七十年のあゆみ」も作成していきます。

国公幼の存在意義を発信する

様々な課題の解決には、PTA等との連携を密にし、地域や行政とのパイプ役として園長や園長会が力を発揮していくことが、これまで以上に重要になります。園長自身が学びを深め、国公幼が地域の幼児教育を守り、日本の未来のために、なくてはならない存在であることを自らの言葉で分かりやすく発信していきます。